



城北小だより

12月号

◇学校教育目標◇

「考える子 思いやりのある子 がんばりぬく子」

令和7年11月28日

さいたま市立城北小学校

TEL 048-757-5391

児童数680名

心をつにする素晴らしさ

校長 池田 誠

気温がぐっと下がり始め、鮮やかに色付いた木々の葉が日に日に落ちていく様子が見られます。近づく冬を感じる今日この頃です。

11月7日（金）は児童が参加する校内音楽会、8日（土）は保護者の皆様に公開する全校音楽会を開催しました。城北っ子は、授業のみならず休み時間や家庭で練習を積み重ねてきました。両日ともにその成果を十分に発揮し、各学年の心をつにした歌声と演奏は、私の琴線に触れました。城北っ子の素晴らしい姿が、一つ増えたように思いました。

音楽会后、感想文を読んだり、直接話を聞いたりしました。「がんばって練習してきたので、本番が一番の演奏をすることができた。」「他の学年の演奏が素晴らしく、心に残った。」「家の人が来ていたのでドキドキしたけれども、きれいな歌声と演奏ができた。」などやり遂げた気持ちの声をたくさん聞くことができました。音楽会という取組が城北っ子の成長や喜びにつながっていることを実感し、嬉しく思いました。

合唱や合奏は声や音の調和、いわゆるハーモニーが大切となります。曲にはたくさんの音や旋律があり、演奏にはたくさんの楽器や演奏する人が必要です。いつもお互いの音をよく聞き、お互いの心に耳を澄ましていると、オーケストラで演奏する方々に伺ったことがあります。城北っ子は練習過程で、お互いの声や楽器の音に耳を傾け、よい演奏にしようとして心をつにするハーモニーの素晴らしさを学んできました。その学びを通してハーモニーを考える力、ハーモニーを生み出す力を身に付けてきたと思っています。その力を合唱や合奏だけでなく、学校生活の中で生かしてほしいと思っています。学級や学校にはいろいろな友達や仲間がいます。その姿や様子をよく見て、話や言葉によく耳を傾け、気持ちを推し量りながら心をつにする、城北小ハーモニーを作り出し、楽しく安心して生活を送りながら、心身共に成長できる学校を城北っ子のみんなで作っていききたいものです。

11月9日（日）には、PTA主催、城北小学校区自治会の協力による「未来に繋げよう 50th anniversary 城北祭」が、開校50年記念行事の一つとして開催されました。PTAの担当の方々が企画、準備、運営に力を合わせていただいたことや、体育館ステージ上での演目と屋外での催し物・出店などにおける多くの方々のご協力に、深く感謝申し上げます。当日は、城北っ子や保護者の方々、卒業生、地域・関係団体の方々など想定を上回る来場数となりました。地域と歩む開校50年記念行事として、思い出に残る城北祭となりました。

今週には、5・6年生14名の記念キャラクター実行委員会から、開校50年記念キャラクターの決定の発表がありました。愛称は「とのまる」です。実行委員会で検討を重ね候補作品として11作品を制作しました。その候補作品を公開し、校内のネットワーク上などで投票してもらいました。全得票数407票の中で一番多い93票数を集めた、6年生の児童が制作した作品が記念キャラクターとして選ばれました。現在デジタルデザイン化を進めています。準備が整い次第、いろいろなところで活躍してもらいたいと思っています。記念キャラクター実行委員のみなさん、投票した児童のみなさんありがとうございました。



【とのまる】

結びに、校内ではインフルエンザ様疾患の症状のある児童が多く見られ、感染拡大防止に努めたところです。換気・外出後の手洗いの励行・マスク等用いた咳エチケットの励行・加湿・十分な休養とバランスの取れた食事の推奨などの予防策を保護者の方と一緒に講じながら、今後も教育活動を進めてまいります。皆様もどうぞご自愛ください。そして、よいお年をお迎えください。

☆☆ 城北小学校の50年 ☆☆ 【校歌制定】

開校して約10か月後の1月末に校歌が完成し、2月1日に校歌を制定しました。現代詩人の会会員である宮澤 章二 氏の詩に、県立浦和第一女子高等学校の先生であり、群馬大学講師であった稲田 浩 氏に曲をつけていただきました。学校とPTAは「卒業式までに校歌を歌えるようにしたい」という思いをもって準備をしました。資金不足を乗り越えようと、PTAでは児童も協力して古新聞の回収運動を行ったり、各家庭に校歌募金を呼びかけたりしたそうです。温かいご理解とご協力が結集し、目標額を上回る資金が集まり、無事に校歌の完成に至ったということです。

※写真は、体育館にある校歌のレリーフ

《学校沿革史・記念アルバム・城北小PTAだより「はくつる」より》



